

けやきゼミナール teacher's 版 No.18



○ あらためてジェンダー問題？



東京五輪パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が女性蔑視発言（「女性がたくさん入る理事会は時間がかかる」）で辞任に至った問題は、ご存じのように、日本ではなく諸外国で、日本社会を浮き彫りにする出来事として報道されました。

フランスでは「日本に根付いた男尊女卑の象徴」、USA では「森は去ったがジェンダー問題は残る」と報じられました。

橋本高校のグランドデザインを年度の始めに配っていると思います。あらためて、裏面に掲載しましたのでご覧ください。では、「ダイバシティ（多様性）&インクルージョン（包括）」をはしもんの手から伸びる黒い線の右にインクルージョン、そして、左にダイバシティの文字があると思います。橋本高校では、ダイバシティとインクルージョンを基軸に教育目標がたてられています。

さて、東京五輪・パラリンピックでは、「多様性と調和」を大会のコンセプトに掲げながら、もと総理大臣でもある組織委員会のトップの女性蔑視発言は、本当に驚いたとともに、これが日本社会の現実であると実感しました。

世界経済フォーラムの男女格差報告「ジェンダー・ギャップ指数」で日本は世界153か国中121位に低迷しています。フランスは15位です。フランスでは1990年に国民議会（下院）の女性議員の割合が10%程度でした。フランスでは、2000年に男女同数の候補者擁立を義務付けた「パリテ法」が成立し、その後、20年かけて女性議員の割合が40%までになっています。男女（性差）に関係なく、その能力に応じて選挙により議員を決めるべきです。しかしながら、ジェンダー問題は、性差ではなく文化的、歴史的、そして社会的に作られた差別です。それを払拭するには、「パリテ法」が必要なかもしれません。誤解してはいけないことは、「パリテ法」は議員候補者の擁立であって、議員は選挙によって選ばれているということです。



日本におけるジェンダー問題解消までには、法的な措置が必要であると感じていますが、その法律を作る国会議員の多くが男性ということが障壁となっていることは、周知の事実だと思います。

最後になりましたが、私が教員として採用され初任校に挨拶に行った時（約30年前）に、当時の社会科担当者は「なんだ女なのか残念」とおっしゃいました。今でも忘れません。女で何が残念なのか、これが文化的・社会的障壁であると思いました。

これからの日本の次世代を担う生徒には、誤った性的役割分担の固定観念について考えてもらいたいと思っています。日本におけるジェンダー問題解消までには、フランスのように、法的な措置が必要であると感じています。

令和2年度キーワード…「組織化」「共有・協働」「探究」「ユニバーサルデザイン」「チャレンジ」

CHALLENGE…各自の目標を見つけ、それに向かって自らの能力や適性を伸ばし、挑戦し続ける

INDEPENDENCE…民主社会の担い手として、優れた判断力と強い責任感を備えた人物を育てる

GLOBAL…国際社会の一員としての自覚を持ち、自国の文化や習慣を大切にすると同時に、他国の文化や習慣を理解できる人間に育てる